

インフルエンザワクチンについて

11月に入って、朝晩の冷え込みが一段と厳しくなってきました。これからインフルエンザの流行が始まってくるものと考えられます。今回の気になる話題では、インフルエンザに関する注意喚起の一環として、インフルエンザワクチンのワクチン株およびワクチン接種について情報提供します。

ワクチン株とその選定について（意外な時期に決定されています）

日本におけるインフルエンザワクチン株は、毎年、厚生労働省の依頼に応じて国立感染症研究所で開催される『インフルエンザワクチン株選定のための検討会議』で検討され、厚生労働省が決定・通達しています。

上記の検討会議では、各地方衛生研究所（当センターもその一つです）および国立感染症研究所において行われた国内インフルエンザウイルス株の抗原分析や住民の抗体保有状況調査の結果など様々な調査結果を踏まえて、インフルエンザウイルスの流行予測とワクチン製造株の選定を検討し、その結果に基づいてインフルエンザワクチン製造株を選定しています。選定過程では、国内のウイルス株に関する情報だけでなく、WHOにより出された北半球次シーズンに対するワクチン推奨株とその選定過程、その他の外国における諸情報も検討材料となっています。

厚生労働省からのワクチン株の決定通知は毎年おおむね春季に公布されています。流行シーズンのおよそ半年前にワクチン株が決定され、それ以降に流行にむけてワクチンが製造されていることとなります。



ワクチンの接種について

接種する意味は？

インフルエンザは体内に入ったインフルエンザウイルスが細胞に侵入して感染しますが、ワクチンは感染自体を抑える働きはありません。しかしワクチンには発熱やのどの痛み等の症状を抑える効果がある程度認められています。

いつ接種するの？

例年、日本ではインフルエンザは12月～3月頃に流行します。ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要するため、毎年12月中旬までにワクチン接種をすることが望ましいと考えられています。

効果はいつまであるの？

季節性インフルエンザワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した2週間から5カ月程度までと考えられています。また、インフルエンザワクチンは、先程示したようにそのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて製造されています。このため、インフルエンザの予防に十分な免疫を保つためには毎年インフルエンザワクチンの接種を受けた方がよいと考えられます。



<参考>

国立感染症研究所ホームページ（2014/15シーズン インフルエンザワクチン株）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/2066-idsc/related/584-atpcs002.html>

厚生労働省ホームページ（インフルエンザQ&A）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html#q17>

（感染症情報センター）